第６分科会「ともに育ちあう職場づくり　－看護・介護の喜びを伝えたい－」

◇運営委員（敬称略）　伊藤　絹江（日赤医療センター）
伊藤　リカ（北海道勤医協札幌西区病院）
井上　裕紀子（東京勤医会東葛看護専門学校）
◇助言者（敬称略）　田中　由紀子（国民医療研究所幹事）

医療・社会保障を取りまく実態は年々深刻さを増し、人手不足が解消されぬまま、どの現場においても業務は複雑かつ高密度化し、医療機器や入力業務、書類への記載などに振り回され、看護師も介護士も「やりがいが見えない」現実に疲弊しています。新政権はこの現状に拍車をかけるかのように、経済再生と称して大企業を優遇し、医療に市場原理を持ち込み、消費税増税を始めとして国民に負担を押し付けようとしています。看護界においては、低医療費政策の一つとして看護師に医行為を代行させる「看護師特定能力認証制度」の動きも活発化しています。看護教育の現場も様変わりし、かつてない就職難の中で安定した職を得たいと賃金の低い介護士やシングルマザーの看護学校入学が増えていると言います。看護も介護も「人がその人らしく生きる」ことに寄り添い応援することを基本に、ケアという相互の関わりを通して、自ら人間として成長できるすばらしい仕事です。

本分科会は、先に述べた厳しい情勢を正しく捉えつつ、忙しくても、辛くても「より良い看護・介護を提供したい」と奮闘する仲間の看護実践や、職員育成の取り組み、職場づくりの経験などを学びあい、看護や介護の本来の役割について考える分科会です。昨年は、「看護学生の教育的背景と特徴」をミニ学習会で学んだ後、レポートを中心にベテランの看護実践、中堅看護師をどう育てていくか、看護と介護のチームで看取りに取り組んだ実践報告、職種を越えたチームの力をどう引き出すか、ストレス調査と職場対応、やりがいを見出せる看護師をどう育てるか、患者に学ぶ看護実践について熱心な討論を行いました。

実践を通して感じる思いを、表現したり言語化したりすることは、日々の奮闘を改めて確認でき、やりがいにもつながります。それは後継者を育成する土台にもなります。どんな看護・介護を目指しているのか、何を大切に日々奮闘しているのか、自分を見つめなおす機会にしてみませんか。世代や働く分野を越えて語りあいましょう。そして、看護・介護本来の仕事ができるよう、それぞれが手を繋ぎ、社会に働きかける運動の組織や医療、福祉の充実を訴え、一人一人が健康で豊かに働き続ける一助となるような交流をしたいと考えています。

◇参加の呼びかけと募集するレポート

日々の看護・介護実践、職員育成の取り組み、職場づくりなど、現場の奮闘が見える実践的なレポート。また、現場を支える労働組合の活動なども募集しています。形式は問いません。

※日々の業務に疲れ、看護・介護のやりがいが見えないという方は、その思いをちょっとだけ開放するつもりで、ぜひご参加ください。若い皆さんにも、豊富な経験を持つ皆さんにも、実践者としてその誇りと喜びをきっと感じていただけると思います。多くの方のご参加をお待ちしております。